

# アマダイ通信NO. 123

(Tile fish network letter)

2018年 水温む

## 知人・友人各位

人間、多少は他人の役に立ち、評価して頂き、対価を得て生きるが、年々歳々人同じからず。年々歳々の、目には彩に見えぬ変化の量が、いつか質に転化する。お陰様で古稀も越え、その日まで、よく学び！よく働き！よく遊び！余生を目一杯楽しみたい。共に！

## ◎🐟さん、残って下さい！

2001年から4年間にがんと診断された5万7千人の10年生存率は55.5%、早期の乳がんや大腸がんは9割を超すという調査(国立がん研究センターなどの研究班)。全部位で早期の1期は80.6%、4期は13.1%、部位別で大腸や胃は1期で約9割、4期では1割を切る。早期発見が大事だ。9か所郭清したリンパ腺の3か所にがんが転位、大腸がんステージ3b(殆んど治癒する見込みなし)の🐟も術後15年だから、この統計対象に入る。当時、日本人の半分ががんになり、1/3ががんで死ぬ、つまり治癒する患者は $3/6 - 2/6 = 1/6$ と言われたが、10年、15年の間に半分以上のがん患者が死の淵から生還するようになった。治療法も随分進歩したから、現在のがん患者の生存率はもっと上がっている。早期発見出来れば、多くのがんで、殆んどが治癒するのではないだろうか。転移していなければ尚更だ。

これまでがんは死に至る病と思われていたから、がんと言われただけでパニックに陥り、がんのことしか考えられなくなり、免疫力を落とし症状を悪化させる方もいた。治らない病と考えられた時代は医者もがんと告知しなかったが、今やがんも治る病気になった。闇雲に不安がるのではなく、早期発見、早期治療が大事だ。がんと告知されても、昨日の自分と今日の自分、そして明日の自分が変わる訳ではない。変わるのは気持ちだけ。出来るだけ普段の生活を維持、医学の力を信じ、治療に努めたい。勿論、日進月歩の医学、科学にも限界は常にあり、そこに「宗教」が入る余地もあるが、「神」頼みでは病は治らない。

先日、お客さんの所に顧問先と一緒に営業、終わり際に、「🐟さん、少し残って下さい」と言われる。子供の頃は、ユニークな発想をするので学校で「枠」を外れての居残りもままあったが、古稀を越えての居残りとは！何を言われるかと身構えると、「妻ががんで、『🐟通信』の『闘病記』を読んで、がんになっても前向きで、がんを克服した🐟さんに随分勇気づけられています！今朝、妻に🐟さんに会うと言ったら、お礼を言って下さい！ということでした。私からも感謝します！」という。

20年以上書き続け、5千人ほどの方に送り続ける、露悪趣味的な駄文。恥ずかしげもなく、恥じ入るばかり。少しは人のために役立っていると思うと、逆に勇気づけられる。

## ◎「Approach」・・木を植えて、「神」になる！

北海道のアイヌ民族博物館新築の件で竹中工務店に足を運ぶ。旧知の官庁営業担当に会って頂き、札幌支店の窓口を紹介して頂く。「approach」という季刊の立派なPR誌も頂く。開けてびっくり、丸ごと「秋田の森づくり」がテーマ。江戸時代、秋田杉が秋田藩の財政に大きく貢献、能代の砂防林「風の松原」の植樹に挑み成功した栗田定之丞やその拡大発展に尽くした賀藤景林が栗田神社、景林神社に神として祀られているなど、色々と学ぶ。

その偉業が当時の人にとっていかに大変なことだったか、「神様」として祀られる二人を知り、思いを新たにす。(ウェブサイト [www.takenaka.co.jp](http://www.takenaka.co.jp))

故郷の白神山地は「屋久島とともに日本初の世界自然遺産に指定された。キノコや木の実に恵まれた森林は保水力に富んだ土壌をもつことから緑のダムとも呼ばれ豊かな土壌から日本海に注ぐ川はプランクトンや海草を育て、海を豊かな漁場とする」と説かれるが、昨年夏、孫娘と久し振り白神の海に潜ると、カジメやアマモはおろか、ワカメやホンダワラ(ギバサ、アカモク)まで生えていない。「海のはげ山」が広がる。最近又、冬の秋田の名物ハタハタが捕れず、底引き網の漁船の廃船も続くと、故郷八峰町の加藤町長。

全く失われてしまった白神の「海の森」と衰退する漁業を如何にして再興するか？食用になるワカメやホンダワラは採り過ぎも考えられるが、カジメやアマモは食用はおろか、肥料にもしない。近年、地方でも下水道が整備され、故郷も例に漏れず生活排水の垂れ流しはなくなった。「水清ければ魚住まず」という。山には砂防ダムがつくられ、下水道も整備され、海の生き物が必要とする栄養素まで不足するようになっていないか？白神の海を舞台に、栗田定之丞や賀藤景林の努力が、今、必要なのではないか！

### ◎惻隱の心？・三つ子の魂百までも！

東京にも雪が降った日の朝、外出時は両手を空けるようにした方がいいとテレビが煩い。いつもの革のショルダーに代え、手提げとショルダー、リュック兼用のスリーウェイの横長の帆布の鞆にする。リュックの時縦長なのはしっくりこない。リュックの時も横長、横々の珍しいスリーウェイバッグを背中に、歩こうとしない孫息子を左腕に抱っこ、右手に保育園のバッグをぶら下げる。鞆が背中「同伴出勤」はそれまでよりも楽。

3歳の誕生記念に娘家族と築地のすし屋で会食した翌日の月曜日、歩いて登園させようと抱っこせず、後退りする🐞に泣きすがらせたまま、心を鬼にして園まで歩き通す。翌朝も泣いても歩かせる積りで、目眩ましにと新聞の折り込み広告で紙飛行機をつくって、娘のマンションに。今日も抱っこ手を差し出す。駄目、今日も歩こうと言うと、「甘えたい間、甘えさせた方がいい。お父さんの時代と育て方が違う。」「お父さんの足腰が大丈夫な限り甘えさせて」と娘。折角の紙飛行機は役にたたず。

三日目の朝の同伴出勤、「お爺ちゃん、足が痛い！」と言ってみるが、「歩かない、うるさい！」の一点張り。それでもエレベーターに乗るまで何回も、「お爺ちゃん足が痛い、足が痛い！」と繰り返すと、エレベーターの中で「歩きたい」と言い出し、下ろしてやる。エレベーターのドアが開くと、とことこ歩き出す。保育園でも「歩いて来たの！」と褒められ、本人も「歩いて来たの！」と得意気にアピール。相手を慮る惻隱の情、優しさが三歳の子にもある！「三つ子の魂百までも」とはよく言ったもの。

### ◎年々歳々人同じからず・「看板婆さん」逝く！

土曜日、塾の宿題持参の小2の孫娘と新幹線で越後湯沢へ。「52人の子供がいます。6人ずつ長椅子にかけたら1脚に4人がかけ、2脚余りました。椅子は何脚ありますか？」孫娘がSOS。元塾の先生の🐞も瞬時に解けず焦るが、孫娘とのスキーは楽しい。岩原スキー場の山頂から林間コースを迂回、メインコースへ。結構なスピードで滑れるようになったが、まだスキーをくの字にしたボーゲン。2本のスキーの間隔を狭めて滑るように！と、

先回りしてパラレルで滑って見せると、むきになって追い越して行く。お昼は高齢で入院の猫目の婆さんから、お腹突き出した小太りの爺さんに経営者交代の山しんでためきうどん。🐟はモツ煮込みうどんを肴に常連と乾杯。

翌週土曜日、奥利根宝台樹スキー場初滑り。NHKの朝の連ドラを観賞、8時頃マンションの駐車場を出て、銀座から高速に。所沢で一旦降り、杉並に住むミサワホーム時代の同僚、30年来の遊び仲間と東所沢の駐車場で合流、再度高速に。テレビが大雪だ！と騒ぐので、高速が通行止めにならないか心配するが、スキー場まで雪は殆どなく、道路もガラ空き、肩透かし。11時半には宝台樹のレストラン「幸新」の駐車場に車を突っ込む。

久し振りの食堂に見慣れた婆さんの姿はない。みれば調理場には二婆（チー婆）が、カウンターの外には新しく三婆が。一婆はと見渡せば、カウンターの小さな額に納まって、桜の花を背に日焼けした、年輪豊かな笑顔でニコリ。享年78歳、合掌。毎年同じ笑顔の裏で、加齢は進み、命は縮む。山菜を採り、漬物を漬ける糠味噌婆さんが急逝、キムチとモツ煮、メの鴨蒸籠うどんだけでビールと地酒の水芭蕉ワンカップ。新雪、深雪、処女雪に悲鳴あげさせ快走、華麗な雪煙のシュプールを描く筈が、新潟は大雪でも山一つ越えた群馬に雪は降らず。ガリガリ、ザザザザ、横滑り、回転にも苦勞する。一度は無圧雪の急斜面で一回転、20mほど滑落。スキーも体も帽子もゴーグルも散乱、飛散する悲惨。それでも3時間半でリフト14本分滑り、大満足。帰日もスイスイ、9時前に帰宅。

### ◎血糖値劇的に下がる！

三楽病院の生活習慣病センターでの診察。生活習慣を変えた訳ではないので、いよいよ血糖値を下げる薬を飲みましょうと、強く迫られると思うが、血糖値が285mg/dl（11月）、225（12月）、124（1月29日）と大幅に減少、閾値は60～110mg/dlで、まだ標準値を少しオーバーだが、よくなりましたね！と女医さんから、お褒めの言葉。迫られると思ったのに迫られず、若い女医さんとの対話はそこで途切れる。

前日の日曜日夕方新宿西口の居酒屋で中学校同期の新年会。鱈腹飲む。高校も同じ、龍角散を卒業、年金生活の加賀君も参加。龍角散が秋田八峰町で栽培した生薬入りのど飴を宣伝、よく売れている。加賀君と語り、昵懇の加藤町長に繫いだ🐟も、故郷への貢献を多少誇っていいか。金曜日夕方、横浜駅前のトルコ料理店トゥルヴァで、かつての隣村峰浜の沢目中学出身で能代高校同期、新潟大医学部卒、横浜に住み、医者をしている小浜君と50年振りに再会。昔話を交え楽しく盛り上がる。

飲んでばかりなのに血糖値が急降下したのは、土曜日の過激なスキーの賜物か？同学の後輩、通産省OBの加藤君と関越道を順調に走る。赤城の辺りから、タイヤチェックをしている下牧パーキングまで思いがけず渋滞。年中冬用のスタッドレスタイヤを履くので下牧パーキングのチェックは無事通過、順調に走る。お昼前ぎりぎりに宝台樹スキー場のレストラン幸新着。渋滞のせいか、手前のスキー場に客が流れたとチー婆。もつ煮とキムチ、鴨蒸籠うどんとビールと地酒の水芭蕉を楽しむ。シルバー半日券で最終の4時半まで3時間、1キロ半のロング上級コース3コースを4本、全部で12本、思いっきり滑る。飲む以上にエネルギーを使い、血糖値を下げたか！

### ◎真子を探して

土曜日は山で「波乗り」、日曜日は月島のプールで千 m 波乗り。その勢いで隅田川を波乗り？築地へ。恋い焦がれた、憧れの真子を探しに人の集まる築地へ。誰か真子を知らないか？休日の築地場外市場はすしざんまいなど寿司屋の他、一部の店しか営業していないが、外人観光客で大賑わい。観光客を掻き分け真子を探す。斉藤水産の看板、何か匂う。店長に聞く。真鱈の子はありますか？真子ならあるよ！冷凍された真鱈の大きな卵巣二つ。石の様に固く凍った真子！石野真子というタレントがいたが、そういうことか！？マウンテンバイク、ルノーの小さな荷籠で二つの真子がガチガチぶつかり合う。

故郷白神の冬の荒海、磯の鮭漁が終わると、沖合で大きな船が底引網を引き、1m 超の巨大な真鱈を獲る。沖合の深海から引上げられた真鱈は、ようやく深海の高圧の苦しきから解放され、目も舌も飛び出し、お腹もドラえもんのように膨らませ、楽チンなユルキャラのよう。そんな真鱈は鍋もよし、干して棒鱈にすれば、炊き合わせやツマミによし、白子は珍味だ。タラコと言えは身はすり身になるだけで（安い居酒屋では真鱈の代わりに鍋にも入るようだが）、卵巣が明太子になるスケトウ鱈が有名だが、何と言っても真子だ！スケトウ鱈の子は明太子とは言っても真子とは言わない。真鱈の子こそ真の鱈子、真子！野菜と炊き合わせても美味しいが、ケサガキのゴボウと人参、シラタキと炒めた、醤油味のキンピラが大好きだ。二歳下の妹、9 番目の兄妹が生まれ、辛子を塗られて泣く泣く手放さざるを得なかったお袋の垂乳根と重ね合わせに思い出される真子こそ、我が冬の思い出。

北国のもう一つのお袋の味、氷頭（鮭の頭の軟骨）ナマス。北辰という日本一の魚屋が各地のデパ地下でワンパック 200 円で氷頭を年中扱い、上野松坂屋にも出店。同じフロアの高級和食の美濃吉が 100g400 円弱で大根と人参の紅白ナマスを販売。混ぜ合わせるだけのお袋の味で一杯、は最高。

そんな義弟を思ってか中学で一年上の優しい姉が、今シーズンはいつもの秋田名物、生鮭とこれぞお袋の味、自家製の鮭の飯鮓の他に自家製の氷頭ナマスも送ってくれる。刷り込まれたお袋の味が忘れられず、秋田直送、築地ゲットの冷凍真子は出刃包丁で小分け、冷凍庫に保存、ササガキのゴボウと人参、シラタキは近くのマルエツで買い、体調優れぬ連れ合いには鍋で炒めて貰うだけで、お袋の味が味わえる。美容と健康のため、コラーゲンだ、コンドロイチンだとサプリメントを使うようなら、デパ地下で氷頭ナマスは如何？

## 「癒しの楽園南インド紀行 8 日間」(Ⅱ)

(‘17.9.16 ~ 23、クラブツーリズム)

### ③ 神のご加護

歴史の浅いチェンナイから南西に 77 キロ、車で 2 時間の古都カーンチプーラムへ。イスラム教のモスクは少ないが、キリスト教会は結構目につく。ポルトガルによる香辛料を目的にしたインド侵略が、剣と聖書を武器にしたものだったからか？征服されし者が独立を勝ち取った後も、征服のための武器が残るといふ理不尽。南米やフィリピンほどではないが聖衣を纏った侵略の尖兵が、当然の様に地元民から反撃を受け犠牲になると、聖者として崇められ、彼等が血祭りにあげた無数の罪なき民が顧みられることはない。学校も村々にあるが文盲が多い。現在でも未就学率は 38%。高等教育を受ける者の絶対数が多く、素晴らしく優秀な人材も多いとは言え、現在でも初等教育も受けられず、読み書き出来ない、単純労働しか出来ない国民が、同世代の 4 割近くいるのはインドにとって痛手だ。

川には思っきりゴミが捨てられ、水面には金魚鉢に浮かぶ、空気の一杯詰まって膨らんだ茎の先に丸い葉をつけ、うす紫の花を咲かせる、日本人にも馴染みの水草カボンバが繁茂、水面は見えない。歩車道の区別なく、ゴミが散らばる。道路には側溝がなく、あっても歩道の下への吸口は小さい。水を浸透させ側溝代わりにする、大地に返すという「思想」か？道路の端は舗装されず土が剥き出し。歩車道の区別がない道も多い。一度雨が降ると泥んことなり、雨が上がっても水溜りが残り、晴れると土埃が舞う。片側2車線の高速道路もあるが、自動車専用道は極く少ない（デリー中心に数百キロという）。時に牛や人間も横切り、バイパスや立体交差も少なく、交通事情は悪い。粗末な葉っぱ葺きの小屋があるかと思うと、アクセンチュア、日産ルノー、スズキ、ホンダなどの近代的で大きなオフィスや工場が点在、切れ目なく集落や町が続く。各所で道路工事や建築工事も盛んだ。

韓国の現代やトヨタなども進出、自動車産業の集積が進むチェンナイだが、交通網の整備が追いつかないのか、コンテナトラックが多数路上で待機する工場も。GEの大きな工場も。自動車などのメーカーが進出すれば部品メーカーも進出、サプライチェーンが築かれ、雇用が増え、所得も向上、車に乗る者も増え、家を建てる者も。車やバイクが手に入れば、買い物や行楽に出かけ、ガソリンも入れ、外食もする。色々な所に金が行き渡り、再生産、順繰りに豊かになっていく循環軌道に乗れる筈。立派なビルに入る店から屋台まで、雑多なお店が軒を連ねる街道。インドらしく牛が所構わず闊歩、空き地の雑草だけでなく、ゴミの山からも餌をあさる。羊も山羊も思い思いに散歩。街道を少し外れた緑地では牛や羊、山羊の群が草を食む。水田も多く、灌漑用の大口径のコンクリート製の井戸も点在。収穫の済んだ田圃、荒起こし中の田圃、早苗の淡い緑、力強く伸びる稲穂と色々。二期作、三期作が可能だからだ。女は伝統衣装のサリーが圧倒的だが、男の腰巻きは少ない。

カーンチプーラムはカーンチプーラムへヴェルガヴァティ川の畔に開け、7～8世紀にバッラヴァ朝の都として栄えた。シヴァ神やヴィシュヌ神を祀る数々の寺院がある寺院都市として知られる。先ず、エーカンプラナータル寺院へ。16～17世紀に建立されたカーンチプーラム最大の寺院。遠くからでもそれとわかる大きな塔門（ゴープラム）。60mと南インドで最も高いものの一つ。遠目には白っぽい、近づくと人間の他に虎やライオン、牛、象、蛇などの頭と人間の体を持った、異教徒にはややコミカルに思えるヒンズー教の神々も、石造の外壁に塗った漆喰の上にカラフルに描かれる。内部は各々の塔門を持つ5つの部分に分かれ、巨大な回廊の床と天井にはカラフルな大きな絵、ひんやりとした空気が漂う。本堂の一角には樹齢3500年という小さなマンゴーの木があり、祠がつくられている。この樹下でシヴァとカーマクシ女神が結婚したという、神聖な伝説の場所。次いでカイラーサナータル寺院へ。8世紀初頭のバッラヴァ朝につくられた最も美しい寺院の一つ。本堂にはシバ神が祀られ、バッラヴァ王のシンボルのライオン像があちこちに刻まれている。2寺院共に、女性のシンボルが深く彫り込まれているのも、日本人の目には珍しい。

次いでチェンナイから南に60キロ、ベンガル湾を望むリゾート地、かつてバッラヴァ朝の首都カーンチプーラムの外港として栄えたマハバリープラムへ。道中、トラクターなどの農機も散見。先ず、バッラヴァ朝時代の海辺の小さな世界遺産、海岸寺院へ。同様の寺院が七つあったというが、インド洋の荒浪にさらわれ一つだけ寂しく残る。自らの住まいも守れぬヴィシュヌ神よ、シヴァ神よ！安穏と祀られていいのか？信仰する民の生活は救えているか？次いで叙事詩マーハーバーラタの中のアルジュナの苦行を刻んだと言われる、

幅 29m 高さ 13m の岩に彫られたアルシュナの苦行の彫刻を見る。神や人間、動物などで埋め尽くされた世界最大級の石彫りのレリーフ。そこから 150m の岩山の途中に、今にも落ちそうな感じで巨岩が止まる。クリシュナ神の大好きなバターボールに似るので、クリシュナのバターボールと呼ばれる。目だけ出したイスラムの女達も赤や青のカラフルなスカーフをする。物乞いの姿もちらほら。資本関係を解消、喧嘩別れした地場資本の HERO HONDA の古いバイクと HONDA の新しいバイクが並ぶ駐車場。チェンナイへの帰り道、郊外の道は広いが、市街地の道は狭く並木の枝をこすって走る。ヒンズー寺院と隣接したり、キリスト教会も思いの外ある。小さなモスクも見かける。朝 8 時に出て、7 時半帰還、ビールの夕食。昼のレストランは「HALAL」と書いてあって飲めなかったのも、殊更美味しい。食後、ホテルの廻りを探索しようと思うが、街灯がある訳でもなし、日本と違って、異国の人間がとても一人で歩ける感じではない。一歩敷地の外に踏み出し慌てて戻る。シャワーを浴び、広いダブルベッドに一人で潜り込む。

#### ④ 眠れる巨像動く！

三日目の月曜朝、ホテルで朝食後、歴史の浅い町チェンナイから南西 470 キロ、人口 102 万、タミールナド州第三の都市、古くからの門前町、マドゥライに向かう。通勤通学時間帯のチェンナイの街中は車とバイク、シクロが入り乱れ、大混雑、大渋滞。ガイドのチョーハンさん、インドではマイナンバーが普及、昨年高額紙幣が廃止され、タンス預金がなくなり、現金支払いが駄目に。全ての取引を政府が把握出来るようになり、税収が増え、道路や鉄道、港湾、空港などへの公共投資が活発になり、見違えるようになりますよ！と自信たっぷり。インドは 1 割が上流、3 割が中流、上流は邸宅、中流は 3LDK のマンションに住む。チョーハンさんも日本にバブルの頃出稼ぎ、首都のデリーに 250 万円の 3LDK を買い、今は 2500 万円に値上りしている。道が良くなり、携帯電話が普及、ネットで情報が広がるようになって役人が仕事をするようになり、賄賂も少なくなった。税収が増え、政府が金持になり、国が良くなる。金持も増えて高級ホテルの利用者も 9 割がインド人で、1 割が外国人だという。モールの人出も凄い。週末になると、豊かになった中間層がようやく手にしたバイクや車に乗って家族全員で、買い物やレジャー、外食に繰り出す。

空港までの道路と平行、新しい高架の鉄道。地下鉄だ。空港まで郊外を走る地下鉄、高架のコンクリートも車両もまだ新しい。都心に近づくとモグラのように地下に潜る。地面を掘り返し、至る処で地下鉄の延伸工事中。道路も恰幅工事や立体交差化工事が進む。完成すると狭い道路に自転車、バイク、バイクタクシー、タクシー、自家用車、バスが入り乱れての朝夕の大渋滞が緩和され、日本の ODA で快適な通勤が実現、労働生産性が向上、豊かなインドの実現に役立つと嬉しい！

チェンナイ空港で、片側 3 列の国内線に乗る。物見高い窓際は 17A 席が当たり喜ぶが、機内に入ると先客。身振り、手振りでも説明するが動かない。スッチーを呼ぶと B 席に移るがそこも仲間の席。気がつけば反対側の K 席にいる。アルファベットがわからないのか？この国の文盲の多さ、今でも 38%という児童の未就学率を思う。経済的に発展しても国民の 4 割近くが教育を受けず、単純な肉体労働しか出来ないと自ずと経済成長の制約となる。悪名高いカースト制度と裏腹の、格差と貧困の悪循環。豊かになることで就学率も上がり、格差と貧困も緩和され、就学率が更に上がり、の上昇スパイラルに入って欲しい。

空からインドの大地を俯瞰する。平坦な緑の大地にポツン、ポツンと大きな池。南インドのカレーはナンと一緒に食べるが、柔らかくて厚い北インドのナンと違って薄く、煎餅のよう。細長くパサパサしたご飯と食べる南インドでは、水田が多い。暖かく 2 期作、3 期作が行われるが、溜池による灌漑がそれを可能にする。刈り取り中の田圃、粗起こしの済んだ田圃、青々と美しい田圃が一緒に広がる脇に、椰子の木が浮かぶ池が広がる。灌漑用の溜池だ。大地に走る茶色の線は乾期で乾上がった川。DAIMLER と屋根に大書した大きな工場も。チェンナイには自動車産業が集積しつつある。その向こうに蒼く輝く海が広がり、白い雲が浮かぶ。海沿いに南下する。一時間強のフライトでマドゥライ着。(続く)

### ◎ボディビルから食品・畜産・医療産業へ・東大三鷹クラブ第 137 回講演会

3 月は、大阪での開催となります。京都大学教授の保川清さん（昭和 53 年入寮）に「ボディビルから食品・畜産・医療産業へ」と題し、話して頂きます。

保川清（やすかわきよし）君とは、昭和 53 年（1978 年）駒場に入寮した年の秋の三鷹寮部屋替えで同室になった。同室者は小野君（在学中に司法試験に合格し弁護士）、横田君（私と同じく工化合成へ進学。横田君は修士で公務員試験にトップ合格し通産へ入省）、及び理Ⅲ2 年の久米さんの 5 人だった。

保川君は体育会ボディビル&ウエイトリフティング部員で、栄養補給のためにポテトチップスなどを毎晩食べており、寮部屋が見る間にスナック菓子の空袋で溢れた。プロテインも食わず、1 年生でありながら東日本大会で好成績をあげ、全国大会に出場した。吉祥寺駅南口の元禄寿司で 50 皿無料で挑戦した保川君は、初めは食欲のままに 3 個一皿の握りばかり食べていたが、50 皿に近づくと腹が膨れてきて 2 個一皿に切り替えて、なんとか無料を達成したと言う。名前が店内に長く張りだされていた（当時一皿 100 円だった）。3 月初めに保川君に誘われて、蔵王へスキーに行ったことは、私には初めてのスキーバスツアーだったこともあって、よく覚えている。

横田君は寮が合わず 1 年で退寮していったが、大学の講義では毎日顔を合わせていた。

それから三十有余年、ある年の三鷹クラブ 3 月の大阪定例会で保川君と再会した。保川君は東ソーに就職後、博士号を取得して京大に赴任していた。保川君と再会后ほどなくして、こんどは横田君が経産省から特任教授として京大に赴任してきた。それまで互いの連絡先も知らず、全く偶然の再会だった。京都四条烏丸近く錦小路の洒落た店に 3 人で集い、30 年以上前に三鷹寮で同室だった 5 人中の 3 人が、奇しくも京大に揃った偶然を祝った。

科学技術振興機構（JST）の研究費は、採択率は低いが採択されれば額は大きい。京都大学大学院農学研究科食品生物科学専攻教授の保川君は JST の先端計測プロジェクトで他大学や母子保健総合医療センターなどとチームを組みリーダーとして活発に研究、この紹介文でわからないことを保川君にメールするとワシントン DC から返事が来た。ワシントンでは時差があって思うように通信できないので JST のホームページに頼ると、独自開発の耐熱型逆転写酵素等を用いた DNA 合成技術を開発し、PCR 等に応用したという。私には何のことかさっぱりわからないが、PCR と聞いて唯一わかるのは、犯罪現場に残されたわずかの DNA を増やす方法だということである。きっと食品偽装も簡単に見破る何か凄く役に立つ研究成果なのである。再び JST のホームページによると、食品・畜産・医療産業へ貢献できるとある。三鷹寮時代に戻って、最先端の科学技術を面白く話してくれる筈である。

(昭和 53 年入寮 京大工学研究科教授 河合潤 記)

日 時 : 平成 30 年 3 月 22 日 (木) 18 時 30 分~21 時 (開場 18 時)

場 所 : 中央電気倶楽部本館 214 号室 (大阪市北区堂島浜 2-1-25 電話 06-6345-6351)

会 費 : 6000 円 (会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み)

### ◎味は文化です、2008 年新春編

駒場の試験もほぼ終わった 2 月 2 日 (金) 夕方、渋谷の駒形どぜうに寮の若い諸君を招き、ドジョウ料理と鯉の洗いで杯を傾け交流。20 人の募集に 27 人の申込み、24 人まで増やし、3 人断るが 2 人無断欠席。OB も 4 人参加、お陰で持ち出し少なし。

11 年入寮の西中君、就職せず起業、取り敢えず自営で IT 関係の仕事をしている。2 年生の青山さんも自分で IT を使いマッチングのアルバイトを始め、それで起業したいという。浅草農園という農業ベンチャーのアルバイトをし、卒業したらそこに就職、いずれ IT を使った農業関係の仕事で起業したいと園田君。今時の若者は草食系が多いというが、結構リスクを取って起業する者がいる。住友不動産を振り出しに不動産や外資系証券を渡り歩いた同期の飯田君、東大卒なんて肩書は何の意味もない、実力で勝負しろ！と後輩を激励。権力に楯突き、(塀の中東大 OB 会？破廉恥罪のホリエモンや大王製紙の横領社長も驚く！) 留置場に 7 回、刑務所に足掛け 3 年の🐟でもどうにか生きて来たから、若い内に「起業して失敗」のリスクはいい勉強。キャリアとして加点される。そんな若者を応援、活躍するのを楽しむためにも、体を鍛え、よく遊び、よく学び、よく働きたい！

参加者は、張喩 (2015 (院)・建築・中国・武漢大学)、北條新之介 (2015 (院)・総合文化研究科地域文化研究専攻アジア科中国・栃木・真岡→東北大)、園田夢之介 (2015・文Ⅲ 教養学部国際科学科・北海道・北海道帯広柏葉)、青山絵里香 (2016・文Ⅲ 文学部東洋史学・愛知・一宮)、片岡丈人 (2016・文Ⅱ・経済・青森・弘前)、洪運蘊 (2016・理Ⅰ 工学部建築学科・大阪・北野)、中野創介 (2016・理Ⅱ・大阪・灘 (兵庫))、檜枝悠太 (2016・理Ⅰ・兵庫・東大寺学園 (奈良))、與古田紗椰 (2016・文Ⅰ・経済学部経営学科・沖縄・球陽)、野口大斗 (2017 (院)・総合文化研究科・兵庫・伊丹)、遠藤菜々子 (2017・文Ⅲ・静岡・浜松西)、北浜駿太 (2017・理Ⅰ・岡山・倉敷天城)、高橋俊広 (2017・文Ⅱ・山梨・甲府南)、野村大善 (2017・理Ⅰ・北海道・北嶺)、橋本信歩 (2017・理Ⅰ・大阪・清風南海)、花畑三華 (2017・文Ⅲ・石川・小松)、ラーリック寿里晏 (2017・理Ⅱ・茨城・水城)、李昌 (2017・理Ⅰ・愛知・一宮)、脇山由基 (2017・理Ⅱ・佐賀・唐津東)、OB が西中亮太 (2011・理Ⅰ 工学部システム創成学科・大阪・四條畷)、勝部日出男 (1968・文Ⅰ 法・鳥取・米子東)、飯田徳松 (1966・文Ⅲ・文・東京・上野)、🐟 (1966・文Ⅰ・法・秋田・能代)、平賀俊之 (1951・文Ⅰ・法、北海道・稚内)

### ◎鶴と竜の住む家 (結びに代えて)

80 歳までのローンが残るマンションのエレベーター、下階で鬼のような大男、チョンマゲ、テレビで見慣れた顔、名前まで浮かばず。駐車場 1 階に黒塗りの大型ワゴン。職員に、鶴竜で一年くらい前から住むと聞く。ネットで調べたら横綱。近隣に 50 階超の超高層マンションが林立。鼻先でオリンピック村の工事。湾岸の高層マンションとは言え、20 階。仕様も庶民的。横綱が住むほどのマンションとも思えないが、バブルなのか？ (再見)